

得意分野を活かした三者連携による原木増産体制づくり

1. 取組の経過及び概要

- (1) 松江市における原木生産の現状  
 松江市の針葉樹面積は9,882haであり、その多くは主伐期を向かえているにも関わらず、松江森林組合の所有機械では、小規模面積しか対応できず、原木生産量が伸び悩み。
- (2) 大規模な作業体系に対応できる連携体制づくり  
 主伐作業は、松江森林組合からスサチップ工業(株)に、植林準備作業は、松浦造園(株)に作業委託することで、各々の林業事業者の得意分野を活かした連携体制を構築。

＜主伐から再生林までの作業の流れ＞  
 ～R4年まで → R5年～



2. 取組の成果

- (1) 原木生産量の増加  
 松江市の原木生産量がR4年3,390m<sup>3</sup>からR5年6,800m<sup>3</sup>へ2倍以上増加の見込み。



- (2) 原木生産と再生林の低コスト化  
 大型林業機械で効率的な作業が可能となり、原木生産コストを低減(コスト低減効果は算定中)。主伐地から林地残材をきれいに回収することにより、効率的で大規模な植林作業が可能。

当組合では、SDGs宣言をしており、得意分野を活かした事業者連携による原木生産に取り組むことで、豊富な森林資源を持続可能な方法で利用することを目指しています。

～ 松江森林組合 代表理事専務 古曳正樹 ～

3. 課題と今後の取組方向

- (1) 今年度の取り組み結果を踏まえ、更なる低コスト化に向けた取組
- ①主伐から植林準備への迅速な引き渡し
  - ②林地残材回収者の効率的な運搬方法の実証
  - ③ドローンによるコンテナ苗の運搬
- (2) 大型機械や運搬作業に必要な10t車が入る林業専用道等の整備が必要